

令和5年度県立多賀高等学校 自己評価表

目指す学校像	(1) 校訓「最善を尽くして颯爽たれ」及び校是「師弟同行・文武不岐」の精神に則り、「知・徳・体」の調和のとれたたくましい「人間力」を育む学校		
	(2) 授業を中心に、生徒一人一人の可能性の開発に努め、進路希望の着実な実現をサポートする学校		
	(3) 特別活動を中心に、よりよい社会づくりに貢献しようとする「シチズンシップ」を培うことにより、地域や保護者から信頼される学校		
昨年度の成果○と課題△	重点項目	重点目標	達成状況
○ 四大進学者のうち「一般」受験者率 (53.6%→65%) △ 国公立大「一般」合格者(0→5人) ○ 家庭学習時間1・2学年平均約90分 △ ベネッセ学力テストB3以上約27%	(1)新学習指導要領の学習評価に即した授業体制による学力の向上、並びに主体的な学習体制の構築	① タブレット等を活用した、家庭学習教材の配信増・家庭学習時間一日平均90分以上 ベネッセ学力テストB3以上40%以上 ② 四大進学者のうち「一般入試」受験者率60%以上 進路実現率100%	B
○ R4授業評価アンケート(生徒向け) ICT活用満足度80%、探究型授業満足度85% 授業と評価の一体化満足度80%	(2)授業改善の実施	③ R5新授業評価アンケート(生徒向け)、肯定的意見90%以上	A
○ HRへの帰属意識が向上→自己有用感の向上 ○ 規範意識の向上→生徒指導事案の減少	(3)自治的能力と自律心の育成	④ HRへの帰属満足度80%以上 生徒指導事案0件	B
○ 学校行事等で主体的に取り組み、自己達成感を得られた生徒80%超 △ コロナ禍で不登校や登校渋りの生徒の増加。 SCの活用増(延べ生徒61名、保護者9名) ○ 家庭学習時間の増加。1・2年生の1日の平均家庭学習時間90分	(4)切磋琢磨の奨励と心身のケア	⑤ 行事後のアンケートで自己達成感・満足感を得られた生徒80%以上 ⑤ 保護者との密な連携やスクールカウンセラーの活用等により、生徒の心理的課題に早期対応により、不登校・登校渋りの生徒50%削減 ⑥ 学校行事やHR活動を充実させ、クラスや学校での居場所を確保し、転退学者数50%削減 ⑦ キャリアパスポートの効率的な活用を通じ、進路意識を高揚。進路の行事1年3回、2年3回、3年2回以上実施	A
△ 超過勤務時間月80時間以上で面談を実施した人数延べ8人→8人	(5)働き方改革の実施	⑧ 超過在校時間45時間以上0名 勤怠管理システム未登録者0名	B

*評価基準：A（十分できている）、B（達成できている）、C（概ね達成できている）、D（不十分である）、E（できていない）

三つの方針		具体的目標		評価	次年度への課題
シス ト ー ク 三 一 の ポ リ シ ー	「育成を目指す資質能力に関する方針」 グラデュエーションポリシー	よりよい社会づくりに主体的に貢献しようとする「市民性」を培い、社会に貢献できる人材を育成	B	B	地域連携強化
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 カリキュラムポリシー	多様な進路ニーズに対応するカリキュラム編成及び探究学習を基盤とする主体的な学習態度の育成	B		探究スキルの育成
	「入学者の受け入れに関する方針」 アドミッションポリシー	学校づくりの主役として日々努力し、自己有用感・自己肯定感を高めることができる生徒学習意欲を持ち、学校教育活動全体を通して、スポーツ・文化・芸術を主体的に体感し楽しもうとする生徒	A		生徒主体の活動促進
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への課題	
教 務	1 教育課程の着実な実施	①各授業時間の確保を徹底(授業交換の徹底、考査間の各授業実施率の均等化、授業時間確保のための行事再検討の実施) ②本校グランドデザインと教育課程実施におけるシラバスならびに各教科評価システムの顕在化	B	B	1①継続。授業時間確保のための行事再検討。 2①継続。 2②継続。2②指導と評価の一体化に関する研修会および教科内の点検機会の充実。 2③ICT研修については10回実施は難しいと感じた。年度初めなど適切なタイミングで研修を実施。 3上段①継続。 3下段②指導要録点検のシステム化。③ICT端末の管理方法の整理
	2 新学習指導要領実施に伴う研究	①新学習指導要領に基づく教育課程の検討継続と各教科における指導方法及び評価システム構築の研修機会の増加 0回→2回(教育課程検討委員会) ②授業改善や指導と評価の一体化に関する研修会の実施 0回→2回(授業力向上委員会) ③ICT(タブレット端末)を活用した授業についての研修機会の増加 6回→10回(GIGAスクール構想推進委員会)	B		
	3 情報管理の徹底と効率化	①考査問題・答案や成績を含む個人情報の管理を徹底と情報管理手順の確実な伝達(考査問題・答案の保管・素点・成績等の取扱い)について毎回注意喚起) ②考査の申し合わせ内容および再考査に関わる内容についての検討 ①校務支援システム変更に伴う運用マニュアルの改編 ②諸帳簿の確実な運用記入・点検体制の構築(新学習指導要領指導要録点検マニュアル化) ③ICT機器の管理運営マニュアルの作成	A B		
教 図 書 務 係	4 図書館利用の促進	①図書利用環境の整備 ②図書委員会の活性化 ①利用者を増やす具体的方策の検討(学年や教科との横断的な利用の検討)	B B	B	4上段①継続②継続 4下段継続
教 渉 外 務 係	5 コロナ後におけるPTA活動の運営	①各PTA行事内容の検討および実施(PTA総会への保護者参加増の方策の検討)	B	B	5継続 6継続
6 各種活動ごとの内容のブラッシュアップ	①評議員決定方法、各係・各学年PTAの活動内容および実施時期の再検討	B			
生 徒 指 導	1 問題行動の未然防止	①生徒との信頼関係の構築に重点を置いた、各種生活指導の徹底 ①下校指導の回数再考	B	B	次年度も、同様の指導を継続するとともに、要支援生徒へ個に応じた支援方法の検討と教員研修を充実させる。服装規定の共通理解と自転車交通マナーの指導を徹底していく。
	2 要支援生徒への早期対応	①要支援生徒向けの教員研修の充実	B		
	3 生徒や社会の実態に応じたルールを研究	①生活指導に関する学校内規の見直しを検討	C		
進 路 指 導	1 学習習慣の確立および基礎学力の養成	①週末課題・小テスト実施の奨励 ②Classiによる家庭学習時間入力の徹底 ③平日1時間以上の家庭学習生徒70%以上	C	C	・学習習慣の確立と基礎学力の養成は、本校生の学習指導において最も克服困難な課題である。引き続き掲げしていきたい。 ・大学入試の多様化により、年内入試の割合は全国的に増加傾向にある。受験勉強に頼らない
	2 大学一般受験に対応する学力の錬成	①長期休業中の課外指導、模擬試験の活用(解説・解き直し含む) ②国公立大学合格10名以上 ③四年制大学志望者のうち、一般入試による受験率60%以上	C		
	3 一人一人の進路希望の実現	①面談3回以上実施 ②小論文指導等の個別指導の充実 ③進路希望実現率100%	B		

*評価基準：A（十分できている）、B（達成できている）、C（概ね達成できている）、D（不十分である）、E（できていない）

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への課題	
特別活動	1 生徒自ら企画立案する場の確保	①フレ松苑祭の運営を生徒が主体となるよう、企画立案・運営の場を設定する。 HR活動で5回・委員会活動・学校行事で各2回以上実施	A	B ・教員・生徒間の情報共有と十分な協議の場を多く設ける。 ・部活動運営や行事の役割分担などにおいて、複数の教員で関わることが出来る体制づくり。 ・部活動の実績や活動計画を外部に見せる形で示すこと。	
	2 特別活動精選の検証	②部活動運営方針等、部活動の在り方を検証し精選	B		
	3 生徒の主体的な活動としての部活動指導体制の研究	①部活動を通して、技術面の向上以外に他者と自発的に関わりあう意識や、それに必要な知識・スキルを身につけるための手立てについて指導者間でのコミュニケーションを積極的に図る	B		
	4 ICTを活用した行事の運営	①行事等でICTを効果的に活用 ②オンラインを活用した学校行事の運営	B		
保健厚生	1 学校環境の美化・整備	①ペットボトル、燃えるゴミ、弁当ゴミの分別を徹底(保健厚生部で毎月点検・確認を実施)	B	B ・ゴミ分別の指導継続 ・新型コロナウイルス感染症対策継続 ・災害備蓄品管理 ・歯科検診指導継続	
	2 安全衛生管理の充実	①新型コロナウイルス感染症の予防及び対策 ②災害備蓄品の管理表作成と整備	B		
	3 生徒の健康の保持増進	①学校での歯科健診未受診者に対する通院受診の指導を養護教諭が面談で実施 【指標】通院受診率5割	B		
第一学年	1 学習習慣の確立および基礎学力の養成	①国・数・英を中心に授業小テストの実施などにより、家庭学習を習慣化させる(生徒の理解度7割以上)。 ②基礎学力を養い、1年後半における対外的な成績向上を目指す(7月<11月<1月)。	B	B ・家庭での学習時間の増加 ・3年間を見通した具体的な進路指導計画 ・特別な配慮が必要と思われる生徒への支援とその研修	
	2 一般受験による大学進学などの進路意識の醸成	①Classiの導入及び学習記録の inputs を継続させるため、担任による声かけなどを行う。また、社会人インタビューや大学見学会を計画実施し、進路意識の高揚を図る。 ②類型選択のためのガイダンスを実施するとともに面談を行い、適正・能力に合わせた選択をできるように手助けする。	B		
	3 望ましい集団活動の実践	①学校行事やホームルーム活動において、自発的・自律的に運営できるようになるための手助けを行う。 ②年2回以上の生徒面談を実施し生徒理解に努め、全ての生徒が心身ともに健康に生活できるよう努める。	A		
第二学年	1 学力の充実	①授業、課題テスト、小テスト等を通じ、主要3教科(英数国)における家庭学習を促し、学力の充実および向上をはかる(全クラス)。 ②年間計画に基づき、Classiやスタディサプリを通じた学習課題(5教科)および長期休業中の課外を通じ、中上位層の成績向上をはかる(5・6組および希望者)。	B	B ・進路実現に向けた学力および意識の向上。また目標達成に向け、自立して勉強に取り組むための支援。 ・最高学年としての自覚を持ち、中心となって学校生活や学校行事をより良いものにしていくという意識の醸成と自主性の育成。 ・Classiやスタディサプリの効果的な活用を継続し指導。 ・行事の精選とクラス経営のスリム化	
	2 自らの進路に関する理解	①Classiの学習記録や生徒面談を通じて各生徒の進路に関する目標や悩みなどを理解し、適性に合わせた進路目標を見出す援助をする(ICTの活用)。 ②様々な場面で積極的にICTを活用し、進路行事や模擬試験結果等も効果的に利用し、適切な進路指導を行う。	B		
	3 学校生活および集団活動を通じた望ましい集団の形成	①学校行事やホームルーム活動において、生徒が主体的に運営・参加することにより自己有用感を高め、より良い人間関係を形成できるための支援をする。 ②日頃の学習・生活指導や面談等を通じて生徒理解に努め、すべての生徒が心身ともに健康な学校生活の実現を目指す。	B		
第三学年	1 学力の向上	①授業内容の充実、家庭学習課題への取り組みの向上、課外授業の実施などを通じた、全ての生徒の学力の充実・向上ならびに入試における学科試験に対応できる学力の獲得(数値目標:教科シラバスの計画実施、ベネッセ全国模試・英数国総合偏差値平均45以上(全体)、偏差値50以上の生徒20名)	B	B 受験指導については、学校全体でのノウハウの蓄積と共通理解が必要であり、3年間を見通した、計画的な指導や仕組みを学校としてきちんと整備し体制作りを必要とする。 生徒の自主性や協調性、責任感を持った態度の育成は継続していくべきである。	
	2 進路目標の実現	①面談の複数回実施および普通の学習・生活指導の充実による、生徒の適性・能力に応じた進路目標達成(数値目標:希望者の進路決定率100%、国公立大学合格者10名以上)	B		
	3 人間関係の育成	①学習活動や学校行事などを通じた、相手の立場に立って考えることのできる「思いやりの心」や協調性・責任感をもった公正な態度の育成。(数値目標:長期欠席者数および欠席日数の減少と全員の卒業)	A		
教科	国語	1 語彙・古典文法等の基礎学力の定着	①知識・技能の確認小テスト実施と授業内での学習意欲向上に向けた声掛け 小テスト正答率60%、定期考査での振り返り問題正解率70%	B	B 小テストや漢字検定に向かう生徒たちの関心意欲を高めていく必要がある。 教員間で授業方法や取り組みを共有し、生徒の主体性を高める授業を行う。 実態に合わせた目標、方策の設定
		2 思考力・判断力・表現力の育成	①学習指導要領に準拠した言語活動の実施並びに主体性を高める授業展開 ②ICT機器の利用とグループ活動やペア学習の実践	B	
		3 漢字検定受験者の合格率向上	①学習教材の提供および受験意欲向上に向けた授業内での問題提示や声掛け 上位資格となる準2級以上の合格者の合格率70%以上	C	
	地歴・公民	1 基礎学力の定着	①授業の工夫、ワークの提出、小テストなどを実施する 【指標】模擬試験偏差値50以上 一般クラス1人以上、特進クラス10人以上	B	B AL型授業、記述式問題など新学習指導要領への対応について研究を継続する。ICT機器の活用方法を模索しながら、より多くの生徒の基礎学力の定着を図る。
		2 ICTを取り入れた授業の実施	①全ての科目でICT機器を活用した授業展開を行う	A	
		3 新学習指導要領への対応 ～特に歴史・地理総合、公共	①AL型授業、記述式問題を研究 ②歴史・地理総合、公共(主権者・消費者教育、道徳・特別活動との連携)を研究	B	
	数学	1 ICT授業の実施	①電子黒板を利用した授業の実施【指標】数学科教員全員の実施 ②生徒用タブレット等を利用した授業の実施【指標】数学科教員全員の実施	B	B ・授業展開や新学習指導に即した指導と評価の研究 ・ICTを活用した授業実践と研修 ・数学検定受験を奨励して受験者を増加させる ・生徒実験の増加 ・思考力・判断力・表現力の育成
		2 学習習慣の定着	①Classiによる動画配信や定期考査前の課題提出【指標】提出率100% ②長期休業中の課外を実施【指標】参加率50%	B	
		3 数学検定の合格率の増加	①受験者に対する課外を実施【指標】合格者40名以上	C	
	理科	1 ICTを取り入れた授業の実施	①教科におけるICT研修及び、教材・技術の共有 ②ICTを活用した授業を8科目全てで実施	B	B ・生徒及び演習実験を各科目3回以上実施 ②実験が実施できない場合は動画映像資料で代用
		2 体験的学習の推進	①生徒及び演習実験を各科目3回以上実施 ②実験が実施できない場合は動画映像資料で代用	B	
		3 思考力・判断力・表現力の育成	①ペアワーク、グループワークを取り入れた授業を実施 ②学習成果を発表する場を1回以上設ける	B	
保健体育	1 規律順守の徹底	①始業時の整列や挨拶、準備体操、体力づくりなどを主体的に実践させ、指導・評価・助言を実施	A	B ・新学習指導要領に対応した年間指導計画作成と評価の進め方の工夫。 ・ICTを活用した保健・体育の授業実践。	
	2 基礎体力の向上	①運動学習場面60%を目標に、運動量の確保	B		
	3 わかる保健授業の展開	①授業力向上のための科内研修を月に1度実施	B		

*評価基準：A(十分できている)、B(達成できている)、C(概ね達成できている)、D(不十分である)、E(できていない)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への課題	
教科	芸術	1 創作の喜びを実感させる授業展開	①生徒の実態に即して創作の楽しさを実感させられる教材の精選と授業の展開	A	A 生徒自身が授業内でICTを効果的に活用し、学びを深められるような授業の研修と実践
		2 言語活動を取り入れた鑑賞活動の充実	①言語活動を取り入れた鑑賞学習の充実と、作品制作の過程を記録・発表させるなど対話的で深い学びを目指した授業の展開	A	
		3 ICT授業の実施	①電子黒板等のICT教材を利用した授業の研修と実践	B	
	外国語	1 大学入試に対応できる「読む力」の育成	①授業および家庭学習課題において英文を読み、定期試験及び確認テストを行う。 (英単語・内容・文法などに関する問題) 【指標】定期試験および確認テストで[B]概ね60%以上の理解度	B	B 教科における小テストを通して家庭学習において英文を読んだり聞いたりすることができている生徒が多いが、共通テスト等に対応するためにより深く読んだり聞いたりするための指導法の検討。また、家庭学習が習慣化できていない生徒に対する指導。
		2 大学入試に対応できる「聴く力」の育成	①授業および家庭学習課題において英語を聴き、定期試験および確認テストを行う。 (英単語・内容・文法などに関する問題) 【指標】定期試験および確認テストで[B]概ね60%以上の理解度	B	
		3 英語による思考力・判断力・表現力の育成	①授業において「書く」「発表・やりとり」などの活動を行い、提出作品やパフォーマンステストにより評価する。 【指標】[B評価]提出作品やパフォーマンステストにおいて、到達目標を全ての生徒が達成	B	
		4 英検受験の奨励と資格取得者増加	①「受験の奨励」を鑑み、(準)会場を設定して受験を奨励するとともに、1次試験合格者に対しては2次試験対策面接を実施する。 【指標】 1学年:準2級取得者20名以上(既取得者含む) 2学年:準2級取得者50名以上(既取得者含む)、2級合格者5名以上 3学年:準2級合格者70名以上(既取得者含む)、2級合格者10名以上(既取得者含む)	B	
	家庭	1 家庭生活を充実向上するために必要な知識・技術・態度の育成	①消費者として、自立して生きていくために必要な、知識・技術・態度を、探究活動やICTの活用を適切に取り入れて育成していく。 【指標】(1)消費者としての意識と知識が向上したと答える生徒85%以上 (2)授業評価アンケート肯定的意見90%以上 (3)ICTを活用した効果的な指導方法の研究をさらに進める	B	B ICTのより効果的な活用方法について研究を進める。指導と評価の一体化のための授業研究、年間指導計画の見直しを進め、課題解決型の授業や評価の仕方についてもさらに研究を進める。
		2 自己の家庭生活の課題を設定し、解決方法を考え、計画を立てて実践する。	①ホームプロジェクトの事前指導を適切に行い、夏季休業中課題としてホームプロジェクトを実践し、校内で発表会を行う。優秀な作品は掲示するなどして、生徒に共有する。 【指標】ホームプロジェクトの全員提出・発表。作品の掲示。	B	
		3 実験・実習の効果的な実施	①ICTを効果的に活用し、実験・実習を効率よく行い、知識・技術を効果的に身に着ける 【指標】(1)授業の5/10以上に実験・実習・探究の要素を取り入れる (2)実技分野で実践力が向上したと答える生徒85%以上	A	
	情報	1 情報化社会で必要となる態度・知識・技能の定着	①新テスト対応を念頭に知識、技能の定着を図るAI型授業の拡充研究 【指標】「情報化社会を生き抜く知識・態度が身についた」者90%以上	B	B ・センター試験の対策・プログラミングの効果的な指導
		2 個別テーマ学習の実施	①テーマの理解、解決、自己の考えの形成、解決法、表現方法を個別に指導 【指標】「自己の考えを的確に表現できるようになった」者85%以上	B	
3 主体的・協働的な学びの評価の確立		①AI型授業の実践を通じ、評価方法の確立と、評価の生徒へのフィードバックを充実する 【指標】「自ら進んで他者と協力することができるようになった」者85%以上	B		
総合的な探究の時間	1 進路実現(大学・専門学校・就職等)に関する自らの課題を発見し、まとめて他者に伝えることにより、それらに関する知識を深めることができるようになる。	①社会人インタビュー:地域の社会人を招き、希望別に講話を聴講。事前学習、実施、振り返り、発表を行う。 ②大学見学会、進路別見学会:1学年は大学を、2学年は大学、専門学校、就職と進路希望別にコースを設定し見学。事前学習、実施、振り返り、レポート作成。	B	B ・総合型選抜に対応するため、課題研究など成果物の作成が必要ではないか ・1,2年の活動が連携できるよ、長期的に計画を立て、継続する。(学年が変わってもやることかわらないように引きつぎをしっかりとる。) ・地域との連携 ・授業としての「総合的な探究の時間」の確保と余裕を持った年間計画の作成 ・教員研修の充実	
	2 調べたことについて考え、整理してまとめ、表現できるようになる。	地域文化研究 ①地元地域について、テーマごとに現状と課題について調べ、課題解決について探究したことをまとめて発表 ②修学旅行で訪問する地域の言語や文化などについてテーマを設定し、自分が住んでいる地域との違いについて調べたことをまとめて発表。更に現地を訪問した際に、その内容について検証。	B		
	3 現代社会に柔軟に対応するための課題解決能力を高めることができる。	①個人での探究活動をさらに深めていく。 ②小論文指導では、国内外で起こっている様々なことからについての記事やニュースから問題点や感じたこと、解決策などをグループで話し合い、文章化する。	B		
いじめ対応問題	1 いじめの未然防止・早期発見	①一人一人が自己効力感を得られる番を確保し、自信を育成 ②生徒・家庭への定期的な声掛け・連絡により信頼関係を構築	B	B 今年度同様きめ細かい対応を継続するとともに、学校が一丸となって対応していくため、研修会などを行っていく。	
	2 問題発生時の初期対応の徹底	①被害者の心のケアを最優先した組織的な対応を徹底	B		
	3 教員研修会の充実	①いじめ問題対応の研修を実施	C		
その他	1 授業改善	①授業アンケートを活用した授業改善の実践。アンケート肯定的意見90%以上	A	B 継続的な授業改善 超過勤務時間45時間以内の徹底	
	2 働き方改革への対応	①業務精選とICTを活用した業務の効率化を図る・超過勤務時間月45時間以内の徹底 ②休暇の取得促進・各自が年休取得14日以上	B		

*評価基準：A（十分できている）、B（達成できている）、C（概ね達成できている）、D（不十分である）、E（できていない）